

の と が わ い し だ い せ き

能登川石田遺跡

所在地：東近江市山路町・林町

遺跡の概要

能登川石田遺跡は標高約 88m の沖積地^{ちゅうせきち}に立地しており、琵琶湖岸から約5kmの内陸部にあります。付近は近年まで水路が複雑に入り組んでいたようで、琵琶湖への湖上交通の拠点に立地しています。

発掘調査は平成4年の宅地開発からはじまり、能登川駅西土地区画整理事業により多くの調査がされ、縄文時代後期（約4,000年前）・弥生時代後期から古墳時代前期・鎌倉時代の遺構や遺物が大量に出土しています。

縄文時代

^{とくろ}**土偶** 2点の土偶が出土しています。ともに素焼きの粘土でできていて、手を挙げた表現をしており、北陸地方の影響を受けたものと見られます。

1号土偶（左） 高さ 5.1cm。表裏両面の首から右腕にかけて、直径 1mm のクシのようなものを使って首飾り状の模様を描いています。

2号土偶（右） 高さ 5.9cm。前後の両面と肩部のほぼ全面に直径約 2mm の竹管状の棒で模様を描いています。頭部は極端に小さく、三角形状にとがった表現をしています。



北環壕3遺物出土状況（背後は能登川中学校）



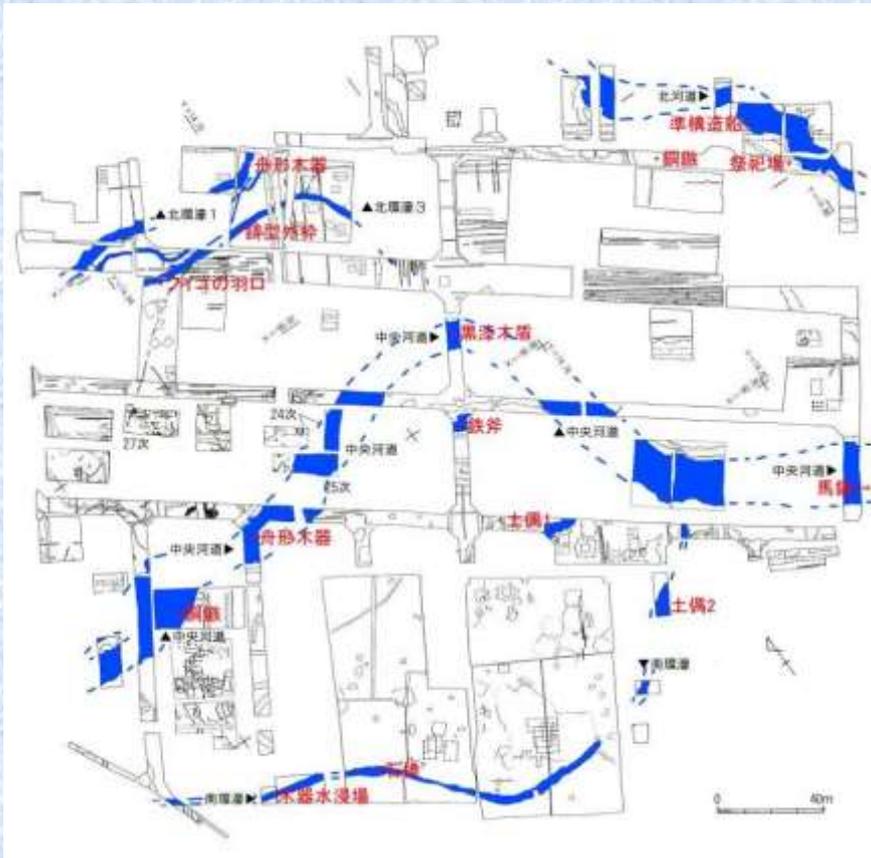


竖穴建物跡と埋甕

石棒 折れていますが、長さ 16.5cm、直径 9.6cm、軟質の凝灰岩で作られています。

竖穴建物跡 縄文時代後期(約 4,000 年前)の竖穴建物です。床面に甕が埋められていました。

弥生時代後期～古墳時代



能登川石田遺跡遺構全体図

環濠 集落の南側で1条(南環濠)、北側で3条(北環濠)が確認されています。

南環濠は幅約2m、検出総延長 180mで、残存する深さは 30cm。北環濠は3条あり、北環濠3が幅約 2.5m、検出延長約80m、深さ約70cmありました。

これらの環濠と周囲の自然地形から推定する集落規模は、南北約 200m、東西約 250mのやや楕円形と考えられます。



北環濠3出土土器



北環濠2

北環濠3



北環濠3作業風景

北環濠 (背後は埋蔵文化財センター・能登川博物館・能登川図書館)



青銅器づくりの想像図



銅鏃



鑄型外枠



ふいごの羽口



木製品出土状況（上：北環濠3、下：南環濠）

青銅器の生産 ^{せいとうさ} ^{はぐち} ^{ちゅうそうざんさ} ^{どうそく} フイゴ羽口と鑄造残渣（カス）、銅鏃（3点）が出土しています。いずれも北環濠の内側の溝から発見されています。羽口は「L」字状のいわゆる曲がり羽口と呼ばれるもので、先端部は二次的な^{ひねつ} ^{せきへんこうか} ^{こうかすつぶ} 被熱で赤変硬化し、内面には銅成分を含む鋳滓粒が肉眼でも確認できます。蛍光X線分析により、銅・錫・鉛などの青銅器（銅鐸・銅鏃など）と同じ金属成分が確認されています。

木製品の加工 ^{かしつ} 環濠や自然河道跡からは、多量の木製品が出土しています。^{すき} ^{くわ} ^{きぼうちよう} ^{そう} ^{ばん} ^{まきゆみ} ^{わく} 鋤や鏃・木包丁などの農具、槽や盤などの容器、丸木弓、たも杵、^{はたおり} ^{さいし} ^{ぎれい} 機織の道具などの日常道具のほか、柱や壁板などの建築部材、祭祀儀礼に使用されたとみられるものなどがあります。

南環濠からは、農具未製品（鋤2点、鏃2点）を並べ置いた、水漬け遺構が発見されています。

北河道からは^{じゅんこうそうせん} ^{だていた} 準構造船の一部（竖板）が見つかっています。



国内最古級の馬鋤 ^{まぐわ} 馬鋤は遺跡を東西に流れる中央河道から出土しました。全体の2/3が残っており、大きさは台木の横幅が70cm、復元すると横幅約1m、歯の本数が全体で12本の馬鋤だったと想定されます。

時期は古墳時代前半（4世紀末～5世紀初頭）と考えられ、大陸からの^{ぎゅうばこう} 牛馬耕導入が今までの説より百年以上も早まる日本の農業技術史上、重要な発見です。

けんし そつしやくくうつるしぬ さたく
絹糸装飾 黒漆塗り木盾 馬鍬が出土した河道

跡の下流から発見されました。3mm間隔で連続した針先ほどの小穴を多数穿って、凹字の形をした幾何学文様を描き、ここを絹糸でかがって補強し、さらにその上から黒漆が塗られています。

と 綴じ糸の間隔が細かく精緻で、文様も繊細な装束を現しており、当時の工芸技術を考える上で大変貴重な資料となるものです。実用品ではなく、有力者が持っていた威儀具または装飾品と考えられます。



絹糸装飾黒漆塗り木盾

平安時代以降

じょうりせい あげみち
平安時代中ごろに実施された条里制の跡が、畦道の下から発掘調査によって見つかっています。条里制とは、土地を約 108mごとに四角く区切り、道路と水路を引き、田んぼや家を配置したもので、現在の区画の基となっています。能登川石田遺跡から区画に沿った建物跡や井戸跡が検出され、土器や木製品が出土しています。



井戸跡

★能登川石田遺跡には



所在地 : 東近江市山路町・林町
アクセス: JR 能登川駅から徒歩 15 分
名神高速道路八日市 I.C より車で 40 分
現地は住宅街となっています。出土遺物は近くにある埋蔵文化財センターで展示・收藏されています。



東近江市の遺跡シリーズ 12 「能登川石田遺跡」

編集・発行 : 東近江市教育委員会 埋蔵文化財センター

〒521-1225 滋賀県東近江市山路町 2225

TEL: 0748-42-5011 IP: 0505-801-5011 FAX: 0748-42-5816

[平成 23 年 3 月発行]

このパンフレットは地域活性化交付金(住民生活に光をそそぐ交付金)を得て作成しました。